

第5回（平成21年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2009年11月12日（木） 15:00～17:30

場所：文部科学省3F 2特別会議室

出席者（敬称略）

部 会 長：山崎俊嗣（産業技術総合研究所）

委 員：芦 寿一郎（東京大学）安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）
沖野郷子（東京大学）坂本竜彦（海洋研究開発機構）末次大輔（海洋研究開発機構）
平野直人（東北大学）松本 剛（琉球大学）森田澄人（産業技術総合研究所）
山本啓之（海洋研究開発機構）山本正伸（北海道大学）

文部科学省海洋地球課：柴田晋吾

海洋研究開発機構：倉本真一 阿波根直一 伊藤久男

事 務 局：松永 稔 藤原彰子 加賀谷一茶 梅津慶太

欠席者（敬称略）

委 員：高澤栄一（新潟大学）林 広樹（島根大学）

議事次第

1. IODP 科学計画更新関連〔山崎部会長〕

(1) INVEST 国内運営委員会よりの要望について

2. 今後の「ちきゅう」運航について〔MEXT, CDEX〕

3. SAS パネル・国内委員会関連〔山崎部会長, 事務局〕.....資料 1

(1) SASEC 委員ローテーションについて

(2) SPC 委員ローテーションについて

(3) SSEP 委員ローテーションについて

4. 専門部会活動報告〔事務局〕

(1) 科学計測専門部会資料 2

5. IODP 掘削航海関連〔山崎部会長, 事務局〕

(1) 今後の掘削航海スケジュールと乗船者募集について資料 2-1, 2-2, 2-3, 3

(2) Exp.324 Shatsky Rise 乗船研究報告〔平野委員(Exp.324 乗船研究者)〕

6. 学術交流関連

(1) KJOD シンポジウム／日韓プロポーザル WS 実施報告および今後の計画〔松本委員〕資料 4-1

(2) J-DESC コアスクール・泥水コース開催企画案.....資料 4-2

(3) 日・独若手交流プログラムについて.....資料 4-3

7. その他.....参考資料 1

・高知大学海洋コア総合研究センター：全国共同利用 ”課題選定委員”推薦について

・次回執行部会開催日程

議事録(案)

1. IODP 科学計画更新関連〔山崎部会長〕

(1) INVEST 国内運営委員会よりの要望について

山崎委員より、標記の件について当日追加配布資料に基づき説明がなされた。

- ・ 現在、次の科学計画ライティングメンバー(案)に入っているのは3名。
- ・ 当初の案ではナショナルバランスに偏りがあったため、もう1名を日本から出せるように SASEC 委員が働きかけた結果こうなった。
- ・ INVEST 国内運営委員会より執行部に対し主に以下のような要望が来ており、執行部としての対応を検討した。
 - ・ サイエンスプラン執筆者をサポートする体制を作してほしい→執筆者が決まり次第検討を行う。
 - ・ プロポーザル執筆のためのワークショップを開く→予算的な問題がクリアできれば開催自体は可能。
- ・ INVEST 運営委員会は役目を終えたが、もう一度改めてメンバーを招集することも可能。

INVEST 国内運営委員会からの要望に関しては執行部で主導し、INVEST 国内運営委員会メンバーにも協力してもらうことを念頭に次回も議論を行うことが合意された。

2. 今後の「ちきゅう」運航について〔MEXT, CDEX〕

柴田企画官より、標記の件について説明がなされた。

- ・ 文科省から深海地球ドリリング計画の推進という形で年間 120 億円程度のお金を JAMSTEC に交付している。
- ・ 事業仕分けのリストにこの事業が含まれているが、廃止や削減などならないよう、最大限の努力を行っている。
- ・ 来年度のことについては行政刷新会議の結果が出なければわからない。

コミュニティーとして役に立てることがあれば協力するので相談してほしいとのコメントが山崎部会長よりあった。

3. SAS パネル・国内委員会関連〔山崎部会長, 事務局〕.....資料 1

(1) SASEC 委員ローテーションについて

- ・ 2名の後任委員が必要でそのうち1名が議長候補であった。
- ・ SASEC 委員の議長候補については金沢大学の荒井氏にお願いすることで決着した。
- ・ もう一名は北里氏に承諾していただいた。

(2) SPC 委員ローテーションについて

- ・ 新委員として山崎部会長が就任することが確認された。
- ・ 次回3月会議時に安間部会長補佐が Alternate 委員として出席することが確認された。

(3) SSEP 委員ローテーションについて

- ・ SSEP 事前打ち合わせの議論の結果、岩石学2名、古海洋学(有機地球化学)1名の公募がよいのではないかと結論であった。
- ・ 今回は SSEP 委員からの上記公募分野案に基づき公募を行うことが合意された。
- ・ SSEP 委員に執行部メンバーがいることはプロポーザルの動向を把握するうえで重要であるため、今回執行部メンバーから少なくとも1名は就任するのが望ましい。
- ・ サブダクションゾーン関係の委員が現在の SSEP 委員にいないため、次回公募時には、SSEP 共同議長となる井龍氏にも相談したうえでサブダクションゾーンの専門家を募集することが合意された。

4. 専門部会活動報告〔事務局〕

(1) 科学計測専門部会資料 2

事務局より標記の件について以下のような報告があった。

- ・ 孔内計測 WG からの Exp. 319 孔内計測成果検討会に関する提案を支持し、その開催を支援する。
- ・ Exp. 319 孔内計測成果検討会は 12 月 1 日に海洋研で開催される予定。
- ・ 微生物研究に関わって今後の問題点や改良に関して議論するなど関与していくことを確認した。
- ・ 「ちきゅう」の掘削航海(Exp. 322)で古地磁気計測に関する問題が発生した件について、STP で議論を行うよう提言を行うことが合意された。

- ・ 船上の古地磁気計測機器を取り扱うメーカーが 1 社独占状態にあって、機器の修理対応・代替機手配などにおいて十分な対応が得られない危機的な状況との認識がある。
- ・ JR 号にも同様の機器が搭載されているため、同じ問題を抱えている。

5. IODP 掘削航海関連 [山崎部会長, 事務局]

(1) 今後の掘削航海スケジュールと乗船者募集について.....資料 2-1, 2-2, 2-3, 3
山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ JR 号の 3 航海が募集を開始する状況にある。
- ・ Juan de Fuca はオブザーバトリー設置が主な目的のため、フルメンバーは必要ない。そのため、2~3 名程度の研究者で十分である。残りの枠(5~6 名)をアウトリーチ要員や技術者など、各 PMO の判断で募集を行ってよいことになっている。何らかのリーズナブルな理由をつければアウトリーチや技術者などへの旅費支援は可能。
- ・ まだ決定していないが、South Pacific Gyre は稲垣氏が Co-chief になるのではないかとこの予想がある。これを考えると、残りの航海のうちもう 1 航海に J-DESC から Co-chief が出るだろう。

以下の件が合意された。

Juan de Fuca については、研究者、技術者、教育者、アウトリーチ関係者等を合計 7 名募集する。それぞれの人数は制限しない(7 名研究者が応募してきた場合は研究者を優先的に推薦する)。

技術開発推進専門部会に事務局より Juan de Fuca の情報を流す。

(2) Exp.324 Shatsky Rise 乗船研究報告 [平野委員 (Exp.324 乗船研究者)]

平野委員より、標記の件について説明がなされた。

- ・ 予定通り 5 か所で掘削を行った。
- ・ 枕状溶岩は回収率が悪かった(10~30%)ものの、厚いラバーフローは回収率が 100%以上のものもあり、よかった。
- ・ 全体として大きなトラブルはなかった。

(3) 今年度「ちきゅう」報告

CDEX 倉本氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ アジマススラスター・ライザーテンショナー修理を終え、2 月から訓練航海を開始し、5 月から IODP を再開した(10 月初めまで)。
- ・ Exp. 319 の成果としては初のライザー掘削を行ったことに加え、熊野海盆の付加体構造発達史の解明、孔内応力測定に成功、2 船式地下構造探査の成功、長期孔内計測弁の設置などがある。
- ・ Exp. 322 ではインプットサイトでコアリングを行った。地震発生帯に運び込まれる初期物質の採取、基盤岩(玄武岩 1600~2300 万年前)の採取、1600 万年前以降の周辺の火成活動の変遷を解明、海底下を流れる 2 種類の地下水を発見、孔内検層により応力情報を取得したことなどが主な成果。
- ・ 現在は房総半島沖でコアリングの訓練航海を行っている。
- ・ 来年はちきゅう建造 5 カ年で中間検査がある(2 か月のドライドック)。
- ・ 来年度は何カ月運航できるかはわからない。今のところ 5 か月動くことを想定してスケジュールを組んでいる。
- ・ 可能性としては、ライザー掘削による深堀り(NanTroSEIZE Stage 3)、オブザーバトリーの設置、沖縄トラフ、マリアナなどがある。12 月に NanTroSEIZE Stage 3 の募集が開始される予定。

(4) Exp. 323 のサンプリングパーティーについて

坂本委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ USIO による研究航海のサンプリングパーティーが高知コアセンターで行われる。
- ・ アメリカ側からは予算が出ない。高知コアセンターではサンプリングにかかわる支援のみしか行わない。
- ・ サイエнтиストへの支援として、J-DESC 事務局に支援を行ってもらうをお願いしたい。
- ・ 国際 SAS 会議同様、ローカルホストとしての支援であれば、国内支援の範囲で可能である。

J-DESC として Exp. 323 のサンプリングパーティーに事務局から支援を行うことが合意された。

6. 学術交流関連

(1) KJOD シンポジウム／日韓プロポーザル WS 実施報告および今後の計画〔松本委員〕 資料 4-1

松本委員より、標記の件について説明がなされた。

- ・ 10月29日～31日にKJODが韓国の済州島にて行われた。29日に沖縄トラフ掘削プロポーザルワークショップ、30日に韓国地質学会の関連セッション、31日に Science Meeting がそれぞれ開かれた。
- ・ J-DESCからは1名に旅費支援を行った。
- ・ 来年は琉球大学にてワークショップを行う予定。
- ・ 日韓プロポーザル WS の日本側事務局を産総研の板木氏が行うことになった。
- ・ 掘削プロポーザルの執筆はテクトニクス関係と古海洋関係のチームに分かれている。
- ・ 古海洋関係は来年10月1日締め切りに間に合うようにプレプロポーザルを出したいとの意向。一方でテクトニクス関係はまだ議論が煮詰まっていない。
- ・ 第1回、2回のJKODシンポジウムは学会とは別に開催。第3回、4回はそれぞれ日本と韓国の地質学会とコラボレートした形で開催された。
- ・ 次回JKOD(第5回)は富山での地質学会時に開催するのがよい。
- ・ 日本の地質学会の時期は韓国のお盆の時期のため、長期日本に滞在することは難しいことから、シンポジウムのみ開催でワークショップは実施できないだろう。

(2) J-DESC コアスクール・泥水コース開催企画案.....資料 4-2

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 泥水検層コースの提案が孔内計測 WG よりあった。
- ・ 石油資源開発株式会社技術研究所にて3月4日～5日に開催予定。
- ・ 人数規模は10名程度。

本件は企画案・予算案ともに承認された。ただし、月刊地球特集号のより正確な価格を確認する必要がある。

(3) 日・独若手交流プログラムについて.....資料 4-3

山崎部会長より標記の件について説明がなされ、以下の合意がなされた。

- ・ この事業に賛同して参加する機関の募集を開始する。
- ・ 募集案を事務局が作成し、執行部にてメール承認を受けた後、募集を行う。

7. その他.....参考資料 1

・高知大学海洋コア総合研究センター:全国共同利用 ”課題選定委員”推薦について

池原委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ 全国共同利用課題の審査に関連して来年度から体制が変わることに伴い、課題選定委員会委員(外部組織枠)も変わる。
- ・ 委員候補者を高知大学側で選定するので、J-DESC IODP 部会として推薦することについて12月の執行部会で承認を行ってほしい。

次回12月の執行部会にて委員候補者を検討し推薦の検討を行うことが合意された。

・乗船研究費について

- ・ 山崎部会長より研究費が何に使えるか(たとえば備品を買えるかなど)について質問があり、後日CDEXより事務局を通じて説明がなされることとなった。
- ・ 委託研究または共同研究という形で研究費を渡す可能性が高い。
- ・ J-DESCとしてはできれば今年度中に実績を作りたい。

・「ちきゅう」について

- ・ 阿波根氏より今後の「ちきゅう」の動きについて説明がなされた。
- ・ 今後「ちきゅう」は訓練航海を行い、その後1/6～13にイベントが開催される(若手研究者向け・アウトリーチ関係者向け)。このイベントに講師の選定などでJ-DESCに協力をお願いするかもしれない。

・次回執行部会開催日程

12月に開催(メールにて調整する)。